

助産師職能委員会活動報告

<助産師職能集会を開催して>

12月17日 和歌山県看護研修センターで助産師職能集会を開催しました。木村協会長の挨拶の後、日本看護協会助産師職能の動き、和歌山県助産師職能委員会の活動報告をさせて頂きました。当日はとても寒い朝でしたが参加者は45名(助産師学生を含む)、職能委員を加えると52名の参加となりました。講師として大阪市立総合医療センターの大蔵珠己先生をお迎えし、ペリネイタルロス・ケア ー移り行く死産ケアーについて1時間30分講演をして頂きました。赤ちゃんの死は無かったことにしてきた文化(見せない、触れない・・・)でしたが、先生の講義を聴き、その子が生まれてきた証を残すこと、悲しみの中での喜びであることを学びました。また、参加者からは「本当に心の底から助産師として寄り添う事を考えさせて頂いた講義でした。」「これまでの亡くなった児のケアを振り返ると後悔します。助産師としての私自身の役割の指針を示して頂き有り難うございました。」等の意見を頂きました。目からウロコの話もたくさんあり、改めてグリーフ・ケアの必要性、重要性に触れ、明日へのパワーを頂いた研修会でした。



<中・高校生に思春期教育を実施して>

助産師職能委員会では中学生・高校生を対象に思春期の出前授業を実施しています。

平成 23 年 11 月に県立伊都高校、12 月に紀乃川中学校の学校行事に『命の出前教室』を行いました。講義は約 1 時間で出産の映像を交え、生命の尊さや思春期の体と心の変化について熱く、想いを語りました。初めのうちは聞いているだけの学生もいましたが、話が進むうちに、熱心に耳を傾けていました。思春期という難しい年頃の学生が自分の身体に興味を持ち、命の大切さを学ぶ良い機会になったと思います。次回は 1 月に向陽中学校に出前授業を予定しています。助産師職能委員会ではこれからも地域の学校などを対象に命の大切さを少しでも多くの方々に聞いて頂く活動を続けていきたいと思っています。

